



NO.929

2013・7・28

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二一四四五八
F 四三二一四四五七



日本共産党8議席に躍進!

21日投・開票の参院選において、日本共産党は改選3議席を大幅に上回る8議席に躍進しました。安倍政権の暴走を真正面から対案を示して対決できる政党、景気回復、憲法、原発、TPPなど、どれをとっても終始ブレない政党として国民の支持が広がった結果と受けとめています。

選挙区選挙では、東京、大阪、京都で大激戦を制して議席を回復し、議席には結びつかなかったとはいえ、当選まであと一歩と迫る善戦した選挙区も多数生まれました。

比例代表では、515万4千票と前回より159万票上回って5議席を獲得しました。

この結果、非改選と合わせて11議席となり、議案提案権を得ることができました。これは、今後の国会活動にとって大きな意義を持つものであり、さまざまな国民運動と共同を強め、要求実現のために大きな力となるものです。

網走市でも

選挙区 森つねと 1763票

前回選挙より359票増

比例代表 (党名・個人名合計) 1670票

前回選挙より435票増

紙 智子 3期目当選

と、得票数・率とも大きく伸ばすことができました。日本共産党にご支持をいただいた有権者のみなさん、網走市のみなさん、猛暑のなか日夜をわかつたご奮闘をいただいた支持者・後援会員のみなさんに心からのお礼を申し上げます。

今後、網走市政においても市民の願い実現のために奮闘してまいります。さらなるご支援・ご支持をおねがいし報告とお礼といたします。

日本共産党網走市委員会



大激戦だった参議院選、共産党は全国的に改選議席を大幅に上回る躍進を果たし、議案提案権を獲得することができました。

選挙区では、森さんを当選まで押し上げられませんでした。三度国会に送ることができました。

さて、その余韻もさめやらぬ22日に北見市で「TPPから『地域』『暮らし』『いのち』を守るオホーツク総決起集会」が開かれ、網走市議会の一員として参加しました。猛暑の中、2千人が参加し「オホーツク地域の経済を壊滅させる交渉参加は断じて許されない。政府に抗議し、即時脱退を強く求める」との集会宣言を採択しました。

来賓あいさつした公約違反の自民党武部新衆議院議員は「参院選で農村地域では厳しい結果と認識している。不信を抱かせたことに率直におわびし、重要5品目が守られなければ撤退も辞さない」と苦しい弁明には、会場から「うそつくな!」と強烈なヤジが飛びました。

集会後のデモ行進で「TPP即時脱退せよ」のシュプレヒコールを参加者と一緒に発して、新たなたたかいへ闘志が湧いてきました。

参議院選挙の比例で念願の5議席、選挙区で3議席の8議席を獲得しました。国政選挙では15年ぶりの躍進で、とても嬉しいです。

今、後援会員や支持者から「おめでとうございます。よかったですね」という喜びの声がたくさん届いています。選挙中、有権者の反応として、自公政治はこりこりだ民主党に政権交代させ期待したのに、公約違反の消費税増税を自民・公明と談合で決めてしま

う。TPPも菅政権が突然言い出すなど自民党以上にひどい政治だった。「こうなったら共産党しかないわ!」という声があふんば聞かれましたので、何とか比例で5議席をと全国の党と後援会が奮闘しました。その結果、残り2議席のところ仁比聡平さんが当選、思わずバンザイをしていました。ご支援をいただいた全てのみなさんに心からのありがとうございます。

流水

「こいつ、すごいいいやつなんすよねえ、食べ物でも、一緒にいると、なんだかほっとするんすよねえ、ま、味も

いいすけど、でも、あつ、耳がピクツと動いた。ちよつとだけかじってみようかな。あなたは友だちだから、片っぽの耳ぐらいならどうぞ。な、んというわけないか。でもおいら、もう腹がへってさ、」▼真つ暗な嵐の夜に、ヤギのメイが、小屋の中で雨宿りをしていると、オオカミのガブが、やって来た。暗闇の中でお互いが仲間同士と思ひ込んだ2匹は、かけがえの無い友情を誓った。次の日メイとガブは壊れそうになる場面を幾度も幾度も経て、さらに深い友情を育んでいく。▼作・きむらゆういち絵・あべ弘士の絵本は、読み聞かせサークルのお母さん達で手作り大型紙芝居になり、配役を変えて公演し、かれこれ8年は、引き継がれている。▼M小の3年生に、喜ばれている。▼友情関係は、どんな場合でもお互いを理解する、同じ立場に立つ努力が要るんだと。人生の訓えを学ぶ場面だ。▼普段の人間関係といえ、自分の至らなさを、相手を傷つけ、自分も傷つくことが多い。「人間に大切なのは、気づきの力」である。▼作家の柳田邦夫氏の講演をかみ締めているこの頃である。▼話変わって共産党3議席が8議席、計11議席、うれしいですね!これからは憲法改悪をやめさせ、子どもたちに戦争をしない国を残しましょう。(て)